

カヤノミカニモリ

岡山県：絶滅危惧Ⅰ類

吸腔目

*Clypeomorus bifasciata* (Sowerby II)

環境省：該当なし

オニノツノガイ科

選定理由

産地・個体数ともに極端な減少傾向にあり、絶滅の危険性が高い。

存続を脅かす要因

不明（護岸工事、海岸開発、干拓、埋立、水質汚濁等の原因が考えられる）、産地局限

分布状況

県内では戦前、備前市日生町大多府島で本種がナガダビという言葉で呼ばれていたと1935年に記録されている。当時のごく普通に見られたと思われるが、その後県内では再発見されていない。

県外では房総半島・北長門海岸以南、熱帯インド・西太平洋に分布する。

生息情報

コオロギに似るが小型で殻長15～20mm、より太短い紡錘形で、螺肋と縦肋の交点が粗い顆粒状となり、縦張肋は弱く不明瞭。海岸岩礁の潮間帯上～中部のタイドプール中に見られ、岩盤上や粗い砂礫底を匍匐し、本州～九州ではウネムシロと同所的に見られることが多い。南西諸島以南では現在も多産する普通種であるが、九州以北ではかつて記録された産地の大半で絶滅または急減し、現存する健全個体群は全国でもわずかであるが、急激に減少した原因は不明である。

文献番号 27

(福田 宏)



ウミニナ

岡山県：絶滅危惧Ⅰ類

吸腔目

*Batillaria multiformis* (Lischke)

環境省：準絶滅危惧

ウミニナ科

選定理由

生息条件が悪化し、産地・個体数ともに極端な減少傾向にあり、絶滅の危険性が高い。

存続を脅かす要因

河川開発（護岸工事）、海岸開発（護岸工事、干潟減少、干拓、埋立）、水質汚濁、産地局限

分布状況

県内では笠岡市、浅口市、倉敷市、岡山市、玉野市、瀬戸内市、備前市で記録されている。

県外では陸奥湾以南の本州、四国、九州、南西諸島に分布する。

生息情報

殻長30mm、太い塔型で硬質堅固、太く低い黒色の螺肋を巡らし、肋間は淡色。体層の左側面が弱い縦張肋状となってやや角張る。殻口内唇後端に強い滑層瘤を具える。内湾奥（多くは河口付近）の干潟上～中部砂泥底表層を匍匐する。自然度の高い場所では多産するが、干潟の縮小や環境悪化に伴って全国的に危機的状況にあり、既に壊滅した産地も多い。児島湾や笠岡湾周辺では古い死殻は散見されるものの生貝が見られることは希で、現在は玉野市や備前市の一部などに僅かに生き残っているに過ぎない。岡山県は他の県に比べて本種の減少傾向が特に著しい。

文献番号 27, 47, 66, 114, 115, 160, 163

(福田 宏)

